



Murata High School 100th Anniversary

# 百年通信

No.5 2024, 9, 9 発行

創立100周年記念事業実行委員会

## 県立移管後の村田高校の歩み



### 学科の変遷



- 1966(昭和41) 普通科2クラス・家政科1クラス
- 1968(昭和43) 普通科2クラス・家政科1クラス  
自動車科1クラス
- 1969(昭和44) 普通科1クラス・家政科1クラス  
自動車科2クラス
- 1990(平成2) 普通科1クラス・自動車科1クラス  
電子機械科1クラス・生活科学科1クラス
- 1995(平成7) 総合学科4クラス
- 2006(平成18) 総合学科3クラス



### 定時制課程の廃止 (1983.3.31)



1947(昭和23).7.8 定時制独立校として出発した定時制課程は35年間にわたり教育活動を展開した。全日制課程開校(1964.4.7)までの16年間の定時制課程の歴史は、そのまま村田高校の歴史でもある。

1983(昭和58)3.31 「男女勤労青年に学ぶ場を与える」という使命を十分に果たし、堅実有能な社会の指導的中堅人物を輩出し、廃止された。最終年度の在籍生徒は1名であった。

### トピックス

#### 剣道部の活躍

- 1968 : 県新人大会 ・ 女子団体優勝
- 1969 : 県高校総体 ・ 女子団体準優勝  
県新人大会 ・ 女子団体優勝 (連覇)
- 1970 : 県高校総体 ・ 女子団体準優勝  
東北大会 …… 優勝《念願の東北制覇》



#### 柔道部の活躍

- 1976 : 県新人大会 ・ 男子団体優勝
- 1977 : 県高校総体 ・ 男子団体準優勝  
男子個人中量級優勝《インターハイ出場》
- 1978 : 県高校総体  
男子個人重量級優勝《インターハイ出場》



#### ソフトボール部

- 1978 : 県高校総体 ・ 女子準優勝



- 中学生数の増加・高校進学率の向上  
↳ 3クラスから4クラスへ
- 車社会に対応できる人間の育成  
他の県立高校に負けない特色を持つ  
↳ 自動車科の設置
- 自動車科1クラスの学科転換を求める声  
教育課程における「情報教育」重視  
↳ 電子機械科の設置
- サービス経済化・情報化・高齢化  
社会の進展に対応する科学知識の習得  
生活関連産業に従事する職業人の育成  
↳ 生活科学科の設置
- 生徒の進路選択の多様化への対応  
4学科を発展させる形で統合  
↳ «資格の取れる総合学科»に改編  
↳ 総合学科の開設

### 記念式典の挙行



- 1969 創立45周年記念式典 (昭和44)
- 1974 創立50周年記念式典 (昭和49) 講演:宇野量介氏 写真抄発行
- 1984 創立60周年記念式典 (昭和59) 講演:中村政雄氏
- 1989 新校舎落成・創立65周年記念式典 (平成元) 講演:三宅義信氏 記念誌発行
- 1994 創立70周年記念式典 (平成6) 記念文集発行
- 2004 創立80周年記念式典 (平成16) 記念誌発行
- 2014 創立90周年記念式典 (平成26) 講演:三宅義信氏
- 2024 創立100周年記念式典 (令和6) 芸術鑑賞:あべや 記念誌発行



### 宮城インターハイ (1990)



ウエイトリフティング競技 (会場:村田町民体育館) 村田高校 ・ 主管校として運営に貢献

- 【活動内容】 ・ 生徒全員が補助員
- 競技会の準備・運営の協力 広報活動
- 参加選手の歓迎 歓迎看板作成
- 環境美化活動 花いっぱい運動

# 総合学科開設前夜 4学科時代の生徒の思い (『創立70周年 記念文集』より)



## 🕒 今,学んでいること (普通科3年)

英語の課外授業を受けている。大学と英検受験のためだ。先生が快く引き受けてくれたことが、何より嬉しかった。最初は私一人の個人授業だったが、今は友人も加わり二人になった。課外授業を受けていても不安でたまらない。英検は合格できるか、大学に入れたとしても大学の授業についていけるか、不安はいくつもある。まずは、不安を持つ前に勉強し続けることが一番だと決めている。

課外授業を受けるなんて、以前の私なら考えられないこと。一度受けた時は、時計ばかり気にして集中できなかった。自分でこの変貌に驚いている反面、反省している。なぜ、今なのか。もっと早くから集中して勉強していれば焦らず、学力をつけられたのに。過ぎてしまったことはどうにもならない。今、取り組んでいることを精一杯頑張ろうと思う。

## 🚗 入学時から現在まで (自動車科3年)

自動車科学部に入り、ホンダエコノパワー・ソーラーカーを製作する等、いろいろチャレンジしてきました。もうすぐ、進路を決めなくてはなりません。就職するのもいいけれど、将来の家庭生活を考えて進学しようかとも考えています。

私が村田高校を選んだのは、3級自動車整備士の資格を取りたかったからです。試験に合格できるように頑張ります。他の学校では取れない資格が取れるので本当に入学してよかったと思います。

## 📖 将来の村田高校 (電子機械科3年)

夢を叶えるために、やる気満々で電子機械科に入学して3年になる。1年の時から授業・実習で学んだことは、一つ残らず自分の中に吸収しようと努力してきた。自分の目標が達成できれば、卒業時には大きな喜びをもたらしてくれるだろう。

30歳、40歳となっても、母校村田高校での生活で社会で活用できれば、いい人生が送れると思う。将来、村田高校には、もっと発展して立派な高校になってほしい。入学した生徒が、村田高校に誇りを持ち、将来の夢をつかんでもらいたい。このまま、長い歴史をつくれる学校であってほしい。

## 👤 体験から学んだこと (生活科学科3年)

「家庭看護」の実習で学んだことは、とても自分のためになりました。ケガの手当てや人工呼吸は、いつ必要になるかわかりません。

3年になり「家庭介護」で老人福祉について学んでいます。月に2回、老人ホームを訪問し、シーツ交換・話し相手・食事介助などの手伝いをしています。実習の方がプリントやノートでの授業より理解しやすいと実感します。内容は高齢化社会となった今の時代にふさわしいものです。いつか私も老人の介護をすることになるかもしれません。

生活科学科での授業で、多くの体験をすることができました。楽しいことも嫌いなこともたくさんありましたが、すべてのことが自分にとってプラスになったと思います。

## 「壁」について (内田より)

1987.8 東西対立最前線《ベルリンの壁》の前。「冷戦を終わらせてやる！」と壁に体当たりを敢行したが、かたく冷たい壁に跳ね返された。ウチダ一人では、歴史を動かし世界を変えることはできなかった。《ベルリンの壁》崩壊の2年前のことだ。冷戦下、社会主義国を巡るには多くの制限があったが、機会に恵まれ <様々な交通手段での国境越え>を体験しながら東欧を旅した。 <④=社会主義 ⑤=資本主義> 【日本】 ⑤ 【ソ連④】 ⑤ 【ポーランド④】 ⑤ 【東ドイツ④】 ⑤ 【西ドイツ(西ベルリン)④】 ⑤ 【東ドイツ④】 ⑤ 【チェコスロバキア④】 ⑤ 【オーストリア④】 ⑤ 【ハンガリー④】 ⑤ 【ソ連④】 ⑤ 【日本】 旅5日目の早朝、ワルシャワ空港を飛び立ち東ベルリン空港へ。入国審査・税関の手続きはスムーズだった。(モスクワ空港では、申請書類の訂正が気に入らなかったのか税関で「Show me the all money!」と命ぜられる怖い目に遭い、ワルシャワ空港での入国審査では、窓口で審査官が「Just a moment」と言うなり、ウチダの目の前で煙草を吸い始め、何と一本吸い終わるまで待たされるという酷い目に遭っていた) その日の午後、バスで西ベルリン(西ドイツ領)に向かった。《ベルリンの壁》の現状を東と西の両側から確認する《東ベルリン → 西ベルリン(西ドイツ領) → 東ベルリン》の国境越えは、旅のハイライトの一つである。東西両陣営のせめぎ合いの現場であり、バスの中にも緊張が走る。東ベルリンの出国検問所でのチェックは厳しかった。トランクルーム・車底の隅々まで1時間もかけて調べられ、ようやく壁を通過した。西ベルリンの入国審査は、ほぼフリーパスで3時間ほど滞在し、冒頭のように《ベルリンの壁》の前にも立った。西ベルリン側は、誰もが壁に近づき、触ることもできる。(東ベルリン側は、壁から10mの範囲に鉄条が張りめぐらされ、軍が厳重に監視しており、近づくこともできない) そのためか、壁全面がスプレーによる落書きアートになっていた。その壁への果敢なノーバインドタックルの決行は国際問題になることもなく、ただ痛みとあざだけを残し、徒労に終わった。西ベルリンから東ベルリンに戻る際の入国審査は、出国時より更に厳しいものだった。バス車内に自動小銃を肩にかけた20代半ばと思しき係官が乗り込み、一人ずつバックの中身を全て取り出し、一つひとつ調べ始めた。ウチダのすぐ前の人の時だった。若い係官は、その人が西ベルリンで買った絵ハガキ(落書きアートの壁の写真)をバックから取り出し、「Look over here!」と乗客全員に注目させ、その絵ハガキを頭上に掲げビリビリと破り棄てた後、何かを叫んで自動小銃を構えた。10秒ほど構えは続き、我々は震えあがり恐怖に耐えた。

さて、生徒諸君。君たちの前にも壁(学習、部活動等)はあるだろう。壁は君たちを強くするためにある。壁を前に立ちすくむばかりではならないが、やみくもにぶち当たっても跳ね返されるだけだ。しっかりと準備をして立ち向かうほどに壁は

